



大学生の愛着傾向とSNSにおける対人関係の関連

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, 玲子, 谷口, ゆい, 岡田, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00006932

大学生の愛着傾向とSNSにおける対人関係の関連

山田 玲子・谷口 ゆい・岡田 忠雄

北海道教育大学札幌校医科学看護学研究室

The Relationship between Attachment and Interpersonal Relationships on SNS in University Students

YAMADA Reiko, TANIGUTI Yui and OKADA Tadao

Department of Clinical Science and Nursing, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education

概 要

愛着とはある特定の人と他の特定の人との間に形成される情緒的な結びつきのことであり、愛着傾向は青年期や成人期以降の対人関係やパーソナリティにも大きく影響するといわれている。これまで愛着傾向と対人関係について多くの先行研究が為されてきたが、それらはすべて対面での対人関係を前提としている。そこで本研究では、大学生の愛着傾向とSocial Network Service (SNS) アプリLINEにおける対人関係の関連について分析し、明らかにすることを目的とし、大学生168人（回収154部、回収率91.7%）に質問紙調査を行った。その結果、対面での対人関係と同様に、LINEによる非対面の対人関係にも愛着傾向が影響することが示唆された。しかしLINE上での対人関係には、愛着傾向だけではなくLINEや連絡についての価値観も影響していると考えられた。

I. はじめに

厚生労働省の国民生活基礎調査（平成26年）によると、悩みやストレスの原因の項目に「人間関係」や「恋愛・結婚」「いじめ・セクハラ」など対人関係に関するものが多く挙げられている。人が生きていく中で対人関係の問題は避けては通れないものである。その対人関係に大きく影響するといわれているのが「愛着」である。愛着とは、ある特定の人と他の特定の人との間に形成される情緒的な結びつきのことであり、多くは乳幼児期に

養育者との間に形成される¹⁾。この愛着には「見捨てられ不安」と「親密性の回避」の2つの側面があり、それぞれの傾向の高さによって安定型（どちらも低い）、とらわれ型（見捨てられ不安が高く、親密性の回避が低いもの）、拒絶型（見捨てられ不安が低く、親密性の回避が高い）、恐れ型（どちらも高い）の4つに分類される²⁾。この愛着傾向は乳幼児期だけではなく、青年期や成人期以降の対人関係やパーソナリティにも大きく影響するといわれている。

これまでの先行研究では、愛着が不安定だと対

人関係における孤独感が強いこと³⁾や不安定な仲間関係を形成しやすいこと⁴⁾などが報告されてきた。しかし、それらはすべて対面での対人関係を前提としている。現代はスマートフォンの急速な普及により、対人関係の在り方も大きく変わってきている。つまり直接会わなくても、SNSやメールなどを通して容易に人と関わることができるのである。さらに、それらの関わりは直接会って人と関わるのとは異なった側面を多く持つ。そのような対面ではない「非対面」での対人関係においても、愛着傾向は影響があるのだろうか。

そこで今回、現在の日本で特に多く利用されているSNSアプリ「LINE」に着目し、愛着傾向と併せて大学生のLINEの使用状況や考えについて調査した。本研究では、大学生の愛着傾向とLINEによる非対面での対人関係の関連について分析し、明らかにすることを目的とした。

II. 対象と方法

1. 調査対象

北海道教育大学札幌校の学生168人(回収154部、回収率91.7%)

2. 調査方法と時期

「愛着スタイルとLINEの使用に関するアンケート」と題した無記名の質問紙(選択式と自由記述式を併用)を配布し、調査を行った。調査期間は2019年10月16日～11月30日の間であった。

3. 調査内容

①対象者について

「年齢」「性別」「生まれ順」の3項目を調査した。

②LINEの使用について

「直接話すよりLINEの方が楽だ」「相手からの返信が遅いと不安になる」などLINE使用に関して大学生がもつと想定される感情および行動18項目を、「全く当てはまらない」から「非常によく当てはまる」の6件法で調査した。その回答から、

「非常によく当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」を「当てはまる」群、「全く当てはまらない」「当てはまらない」「あまり当てはまらない」を「当てはまらない群」と2群に分けた。

また、A「平均してどれくらい返信が来ないと、返信が遅いと感じるか」「LINEを開いたとき、全体の通知が何件以上あると多いと感じるか」の2項目を自由記述式で調査した。その数値をもとに、Aは「1日未満」「1日」「2～3日」「4日以上」の4つに分類、Bは「10未満」「10～19」「20～39」「40以上」の4つに分類した。

③愛着傾向について

中尾・加藤⁵⁾が作成した一般他者版親密な対人関係体験尺度36項目のうち、因子負荷量が0.5以上の19項目を用いた。回答は「全く当てはまらない」から「非常に良く当てはまる」までの6件法で調査した。その結果から、先行研究を参考に前述の4つ(「安定型」「とらわれ型」「拒絶型」「恐れ型」)に分類した。

④その他

現在の保護者との関係性について、10点満点で自己評価してもらった。また、LINEの使用やLINE上の対人関係に関する自由記述欄も設けた。

4. 分析方法

分析は、各調査項目におけるクロス集計の χ^2 検定と、調査項目の因子分析、測定された不安傾向及び回避傾向と各調査項目における相関分析を行った。統計的分析には、BellCurveエクセル統計を用いた。

5. 倫理的配慮

倫理的配慮として、質問紙調査協力者に対して参加は自由意志であり、不利益を被ることはないこと、研究は個人が特定されないように統計処理を行うこと、研究の目的以外に使用されることはないこと等を文書と口頭で説明した。質問紙の回収をもって協力者からの同意を得たと判断した。

Ⅲ. 結果

1. 対象者の属性と愛着傾向

対象者の平均年齢は、20.0 (SD1.21)歳であり、性別は「女性」109人 (70.8%), 「男性」45人 (29.2%) であった。生まれ順は「長子」59人 (38.3%), 「末っ子」48人 (31.2%), 「一人っ子」24人 (15.6%), 「中間子」21人 (13.6%) であった。

愛着傾向については、「安定型」45人 (30.2%), 「恐れ型」43人 (28.9%), 「とらわれ型」35人 (23.5%), 「拒絶型」26人 (17.4%) であった。保護者との関係について10点満点で自己採点してもらったところ、平均8.3 (SD1.97) 点であった。

2. LINEの使用について

LINEの使用に関する18項目の調査結果に関し

ては、表1に示した。「非常によく当てはまる」「当てはまる」と答えた人が多い項目は、「16. 忙しい時はLINEの返信を後回しにする」「18. 既読をつけたらすぐに返信する」「6. たくさんLINEの通知がくると見るのをやめたくなる」「3. 次々とメッセージが送られてくるとわずらわしい」「12. 嫌な相手はブロックする」であった。

また、「平均してどれくらい返信が来ないと、返信が遅いと感じるか」の質問は、「1日」という回答が最も多く52人 (33.8%) であった(表2)。「LINEを開いたとき、全体の通知が何件以上あると多いと感じるか」は、「20~39」が最も多く53人 (34.4%) であった(表3)。

3. LINEの使用と愛着傾向

LINEの使用に関する18項目のうち、特に対人

表1 LINEの使用

LINEの使用に関する質問	人数 (%)							合計
	非常によく	当てはまる	やや	あまり	当てはまらない	全く		
1. 直接話すよりLINEの会話の方が楽	13 (8.4)	13 (8.4)	27 (17.5)	35 (22.7)	53 (34.4)	20 (13.0)	154 (100.0)	
2. 相手からの返信が遅いと不安になる	3 (2.0)	17 (11.0)	33 (21.4)	36 (23.4)	33 (21.4)	32 (20.8)	154 (100.0)	
3. 次々とメッセージが送られてくるとわずらわしい	22 (14.3)	36 (23.4)	36 (23.4)	15 (9.7)	28 (18.2)	17 (11.0)	154 (100.0)	
4. 寂しいときはLINEを使って誰かに話しかける	7 (4.6)	15 (9.7)	23 (14.9)	19 (12.3)	42 (27.3)	48 (31.2)	154 (100.0)	
5. 直接では言いにくいこともLINEでは言える	8 (5.2)	14 (9.1)	33 (21.4)	24 (15.6)	35 (22.7)	40 (26.0)	154 (100.0)	
6. たくさんLINEの通知がくると見るのをやめたくなる	35 (22.7)	24 (15.6)	31 (20.1)	16 (10.4)	30 (19.5)	18 (11.7)	154 (100.0)	
7. 既読がついているのに返信がないとイライラする	5 (3.2)	14 (9.1)	27 (17.5)	30 (19.5)	40 (26.0)	38 (24.7)	154 (100.0)	
8. 既読がついたかどうか何度も確認する	1 (0.7)	7 (4.5)	19 (12.3)	22 (14.3)	46 (29.9)	59 (38.3)	154 (100.0)	
9. LINEをチェックしたときに1件もメッセージがないと寂しい	1 (0.7)	7 (4.5)	19 (12.3)	18 (11.7)	34 (22.1)	75 (48.7)	154 (100.0)	
10. 相手からの返信が遅いとイライラする	1 (0.7)	5 (3.2)	19 (12.3)	25 (16.2)	46 (29.9)	58 (37.7)	154 (100.0)	
11. LINEがあればいつでも誰かと繋がっていられるように感じる	6 (4.0)	8 (5.2)	17 (11.0)	23 (14.9)	45 (29.2)	55 (35.7)	154 (100.0)	
12. 嫌な相手はブロックする	21 (13.6)	14 (9.1)	14 (9.1)	20 (13.0)	32 (20.8)	53 (34.4)	154 (100.0)	
13. 既読がついているのに返信がないと不安になる	8 (5.3)	13 (8.4)	31 (20.1)	28 (18.2)	35 (22.7)	39 (25.3)	154 (100.0)	
14. 自分からやりとりを終わらせることがなかなかできない	7 (4.7)	21 (13.6)	21 (13.6)	11 (7.1)	35 (22.7)	59 (38.3)	154 (100.0)	
15. LINEの通知が来ていないか頻りにチェックする	0 (0.0)	9 (5.8)	18 (11.7)	22 (14.3)	52 (33.8)	53 (34.4)	154 (100.0)	
16. 忙しいときはLINEの返信を後回しにする	65 (42.2)	50 (32.5)	22 (14.3)	7 (4.5)	8 (5.2)	2 (1.3)	154 (100.0)	
17. LINEを使っているとき自分は今1人じゃないという感覚がある	6 (3.9)	7 (4.5)	22 (14.3)	27 (17.5)	38 (24.7)	54 (35.1)	154 (100.0)	
18. 既読をつけたらすぐに返信する	41 (26.7)	28 (18.2)	35 (22.7)	23 (14.9)	13 (8.4)	14 (9.1)	154 (100.0)	

表2 返信が遅いと感じる時間

	人数 (%)	
1日未満	31	(20.1)
1日	52	(33.8)
2~3日	36	(23.4)
4日以上	32	(20.8)
無回答	3	(1.9)
計	154	(100.0)

表3 多いと感じる通知の件数

	人数 (%)	
10未満	15	(9.7)
10~19	48	(31.2)
20~39	53	(34.4)
40以上	35	(22.7)
無回答	3	(2.0)
計	154	(100.0)

表4 [2. 相手からのLINE返信が遅いと不安になる]と愛着傾向
人数 (%)

愛着傾向	当てはまらない	当てはまる	計
恐れ型	26 (60.5)	17 (39.5)	43 (100.0)
とらわれ型	16 (45.7)	19 (54.3)	35 (100.0)
拒絶型	20 (76.9)	6 (23.1)	26 (100.0)
安定型	35 (77.8)	10 (22.2)	45 (100.0)
計	97 (65.1)	52 (34.9)	149 (100.0)

無回答3人 p = 0.01184
* p < 0.05

表6 [13. 既読がついているのに返信がないと不安になる]と愛着傾向
人数 (%)

愛着傾向	当てはまらない	当てはまる	計
恐れ型	27 (62.8)	16 (37.2)	43 (100.0)
とらわれ型	15 (42.9)	20 (57.1)	35 (100.0)
拒絶型	21 (80.8)	5 (19.2)	26 (100.0)
安定型	36 (80.0)	9 (20.0)	45 (100.0)
計	99 (66.4)	50 (33.6)	149 (100.0)

無回答3人 p = 0.00174
** p < 0.01

表8 [15. LINEの通知が来ないか頻繁にチェックする]と愛着傾向
人数 (%)

愛着傾向	当てはまらない	当てはまる	計
恐れ型	34 (79.1)	9 (20.9)	43 (100.0)
とらわれ型	23 (65.7)	12 (34.3)	35 (100.0)
拒絶型	26 (100.0)	0 (0.0)	26 (100.0)
安定型	39 (86.7)	6 (13.3)	45 (100.0)
計	122 (81.9)	27 (18.1)	149 (100.0)

無回答3人 p = 0.00499
** p < 0.01

表5 [7. 既読がついているのに返信がないとイライラする]と愛着傾向
人数 (%)

愛着傾向	当てはまらない	当てはまる	計
恐れ型	29 (67.4)	14 (32.6)	43 (100.0)
とらわれ型	17 (48.6)	18 (51.4)	35 (100.0)
拒絶型	20 (76.9)	6 (23.1)	26 (100.0)
安定型	38 (84.4)	7 (15.6)	45 (100.0)
計	104 (69.8)	45 (30.2)	149 (100.0)

無回答3人 p = 0.00509
** p < 0.01

表7 [14. 自分からやりとりを終わらせることがなかなかできない]と愛着傾向
人数 (%)

愛着傾向	当てはまらない	当てはまる	計
恐れ型	21 (48.8)	22 (51.2)	43 (100.0)
とらわれ型	25 (71.4)	10 (28.6)	35 (100.0)
拒絶型	23 (88.5)	3 (11.5)	26 (100.0)
安定型	32 (71.1)	13 (28.9)	45 (100.0)
計	101 (67.8)	48 (32.2)	149 (100.0)

無回答3人 p = 0.00558
** p < 0.01

表9 [17. LINEを使っているとき自分は1人じゃないという感覚がある]と愛着傾向
人数 (%)

愛着傾向	当てはまらない	当てはまる	計
恐れ型	34 (79.1)	9 (20.9)	43 (100.0)
とらわれ型	20 (57.1)	15 (42.9)	35 (100.0)
拒絶型	23 (88.5)	3 (11.5)	26 (100.0)
安定型	38 (84.4)	7 (15.6)	45 (100.0)
計	115 (77.2)	34 (22.8)	149 (100.0)

無回答3人 p = 0.01024
* p < 0.05

関係に関連する6項目に関する回答を「当てはまる」群「当てはまらない」群の2群に分けたものと4つの愛着傾向との関連を調べた(表4~9)。その結果を χ^2 検定で分析したところ、すべて有意差が認められ、愛着傾向とLINE使用で特に対人関係についての6項目とは関連があった。

4. LINEの使用に関する因子分析

LINEの使用に関する質問18項目に対して最尤法による因子分析を行った。固有値の変化と因子の解釈可能性から2因子解を採用し、再度最尤

法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、因子負荷量が.35に満たない7項目を削除し、再び最尤法・Promax回転を行った。その結果を表10に示した。第1因子は相手からの返信がないことへの不安や、相手が既読をつけたかどうかを気にするなどの5項目で構造されていることから、「応答への不安」因子と命名した。第2因子はLINEによって人と繋がっている感覚や寂しいときにLINEを使うなどの6項目で構造されていることから、「つながり願望」因子と命名した。

表10 LINEの使用に関する質問項目の因子分析結果(最尤法, Promax回転)

	Factor 1	Factor 2	共通性
7. 既読がついているのに返信がないとイライラする	.829	-.139	.573
10. 相手からの返信が遅いとイライラする	.807	-.125	.550
13. 既読がついているのに返信がないと不安になる	.764	.064	.645
2. 相手からの返信が遅いと不安になる	.707	.104	.596
8. 既読がついたかどうか何度も確認する	.561	.195	.480
17. LINEを使っているとき自分は今1人じゃないという感覚がある	-.194	.907	.656
11. LINEがあればいつでも誰かと繋がってられるように感じる	.026	.801	.667
4. 寂しいときはLINEを使って誰かに話しかける	-.022	.655	.412
5. 直接では言いにくいこともLINEでは言える	.127	.448	.282
15. LINEの通知が来ていないか頻りにチェックする	.281	.414	.384
9. LINEをチェックしたときに1件もメッセージがないと寂しい	.360	.391	.445
因子間相関			
	Factor 1	Factor 2	
Factor 1	1.000	.579	
Factor 2	.579	1.000	

5. 愛着傾向に関する因子分析

愛着傾向に関する質問19項目に対して最尤法による因子分析を行った。固有値の変化と因子の解釈可能性から2因子解を採用し、再度最尤法・Promax回転による因子分析を行った。その結果を表11に示した。第1因子は人が離れていく不安、一人になる不安などの12項目で構造されていることから、愛着の1側面である「見捨てられ不安」因子であることを確認した。第2因子は心の内を明かすことへの抵抗、人へ頼ることへの抵抗などの7項目で構造されていることから、「親密性の回避」因子であることを確認した。

6. LINE使用に関する項目との相関分析

①LINE使用に関する18項目と不安・回避傾向および現在の保護者との関係性について

LINEの使用に関する項目と現在の保護者との関係性、不安・回避傾向について相関分析を行った(表12)。不安傾向とLINEの使用に関する項目で低い正の相関が見られたのは「2. 相手からの返信が遅いと不安になる」「4. 寂しいときはLINEを使って誰かに話しかける」「5. 直接では言いにくいこともLINEでは言える」「7. 既読がついているのに返信がないとイライラする」「8. 既読がついたかどうか何度も確認する」「9.

表11 一般他者版親密な対人関係体験尺度の因子分析結果（最尤法, Promax回転）

	Factor 1	Factor 2	共通性
(8)私は一人ぼっちになってしまうのではないかと心配する	.836	-.010	.697
(5)私は知り合いを失うのではないかと結構心配している	.829	.089	.713
(2)私は見捨てられるのではないかと心配だ	.781	.086	.633
(3)私は色々な人との関係について非常に心配している	.764	.026	.589
(11)私には人が私に対して好意的であるということを何度も何度も言うてくれることが必要だ	.728	-.115	.524
(12)私は、人に見捨てられるのではないかと心配になることはほとんどない	.704	.037	.503
(4)私が人のことを大切に思うほどには、人が私のことを大切に思っていないのではないかと心配する。	.689	.117	.507
(10)私が人ととても親密になりたいと強く望むせいで、時々人はうんざりして私から離れていってしまう	.638	-.056	.402
(7)私があまりに気持ちの上で完全に1つになることを求めるせいで、時々人はうんざりして私から離れていってしまう	.635	.023	.408
(15)私が親密になりたいと思うほどには、人は私と親密になりたいと思ってないと思う	.613	.016	.378
(13)私は人に自分のことを好きになってもらうことができなかつたら、きっと気が動転して悲しくなったり腹が立ったりする	.582	-.122	.336
(19)私は、人が必要なときにいつでも私のためにいてくれないとイライラする	.478	-.286	.279
(14)私は人に何でも話す	-.172	.774	.597
(1)心の奥底で何を感じているかを人に見せるのは、どちらかというとき好きではない	-.028	.773	.593
(16)私はたいてい、自分の問題や心配事を人に話す	-.242	.758	.590
(6)私は人に心を開くのに抵抗を感じる	.172	.598	.411
(9)私は心の奥底にある考えや気持ちを、人に話すことに抵抗がない	-.024	.542	.292
(18)私は人になぐさめやアドバイス、助けを求めることに抵抗を感じない	.222	.520	.346
(17)私は人に頼ることに抵抗がない	.366	.453	.378
因子間相関			
	Factor 1	Factor 2	
Factor 1	1.000	.117	
Factor 2	.117	1.000	

LINEをチェックしたときに一件もメッセージがないと寂しい」「11. LINEがあればいつでも誰かと繋がってられるように感じる」「13. 既読がついているのに返信がないと不安になる」「14. 自分からやりとりを終わらせることがなかなかできない」「15. LINEの通知が来ていないか頻繁にチェックする」「17. LINEを使っているとき自分は今一人じゃないという感覚がある」「返信が遅いと感じる時間」「多いと感じる通知の件数」の13項目であった。また、不安傾向と現在の保護者との関係性に相関は見られなかった。

回避傾向とLINEの使用に関する項目および現

在の保護者との関係性に相関は見られなかった。

「返信が遅いと感じる時間」と「多いと感じる通知の件数」に高い相関が見られた。

②LINE使用に関する因子と不安・回避傾向

LINE使用に関する質問の因子分析で得られた「返信への不安」因子および「つながり願望」因子と不安・回避傾向について相関分析を行った（表13）。その結果、不安傾向と「返信への不安」因子および「繋がり願望」因子との間には低い正の相関が見られた。回避傾向と「返信への不安」因子および「つながり願望」因子との間には相関が見られなかった。

表12 不安・回避傾向とLINEの使用に関する項目および現在の保護者との関係性の相関

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	返信 遅い	通知 多い	保護者	不安	回避	
1. 直接話すよりLINEの会話の方が楽だ	1.000																							
2. 相手からの返信が遅いと不安になる	.165*	1.000																						
3. 次々とメッセージが送られてくると煩わしい	.082	-.028	1.000																					
4. 寂しいときはLINEを使って誰かに話しかける	.168*	.283**	.029	1.000																				
5. 直接では言いにくいこともLINEでは言える	.422**	.286**	-.091	.391**	1.000																			
6. たくさんLINEの通知が来ると見るのをやめたくなる	-.065	-.071	.616**	.029	-.122	1.000																		
7. 既読がついたかどうかどうかが何回も確認する	.100	.493**	-.041	.194*	.253**	-.086	1.000																	
8. 既読がついたかどうかどうかが何回も確認する	.198*	.590**	-.073	.325**	.311**	-.034	.460**	1.000																
9. LINEをチェックしたときに1件もメッセージがないと寂しい	.105	.487**	-.092	.428**	.306*	-.089	.333**	.524**	1.000															
10. 相手からの返信が遅いとイライラする	.154 ⁺	.551**	.025	.193*	.248**	-.121	.603**	.441**	.430**	1.000														
11. LINEがあればいつでも誰かと繋がっていられたらいいと感じる	.172*	.438**	-.079	.478**	.472**	.000	.295**	.408**	.452**	.334**	1.000													
12. 嫌な相手はブロックする	-.060	-.003	.063	.023	.082	-.010	.047	.028	.160*	.103	.082	1.000												
13. 既読がついているのに返信がないと不安になる	.152*	.635**	-.177*	.313**	.335**	-.132	.649**	.506**	.473**	.547**	.418**	.061	1.000											
14. 自分からやりとりを終わらせることがなかなかできない	.090	.202*	-.111	.116	.273**	.063	.209*	.210*	.204*	.141*	.261**	-.048	.221**	1.000										
15. LINEの通知が来ないが頻りにチェックする	.136*	.441**	-.096	.472**	.394**	-.120	.338**	.507**	.427**	.312**	.455**	.033	.404**	.171*	1.000									
16. 忙しい時はLINEの返信を後回しにする	-.091	-.117	.198*	.091	.104	.309**	-.157*	-.172*	-.066	-.165*	-.007	.179*	-.012	.119	-.115	1.000								
17. LINEを使っているとき自分は今1人じゃないという感覚がある	.114	.301**	-.040	.500**	.329**	-.034	.180*	.313**	.448**	.140*	.688**	.094	.530**	.189*	.363**	.058	1.000							
18. 私は既読をつけたらすぐに返信する	-.101	.139 ⁺	-.165*	.018	.132	-.039	.152*	.035	.120	.082	.189*	-.081	.237**	.076	.129	-.148*	.123	1.000						
返信が遅いと感じる時間	-.035	.060	.031	-.089	.041	.022	.041	.056	-.065	.043	-.005	.044	.022	.063	.045	.066	-.082	-.026	1.000					
多いと感じる通知の件数	-.018	.084	.009	-.062	.060	.009	.060	.078	-.048	.070	.029	.039	.056	.086	.081	.057	-.059	-.008	.994**	1.000				
現在の保護者との関係性	-.100	.032	.006	-.050	-.083	-.053	-.004	-.048	.006	-.012	-.019	-.046	-.053	-.107	-.035	-.175*	-.069	-.023	-.055	-.057	1.000			
不安傾向	.033	.356**	.046	.250**	.263**	.082	.327**	.320**	.296**	.198*	.309**	.011	.374**	.270**	.326**	-.102	.318**	.088	.213**	.232**	-.120	1.000		
回避傾向	.120	-.039	.147*	-.162*	-.149*	.095	-.027	-.141*	-.134	-.008	-.088	-.016	-.112	.022	-.096	-.187*	-.192*	-.099	.029	.026	-.058	.154*	1.000	

** $p < .01$, * $p < .05$, ⁺ $p < .10$

表13 不安・回避傾向と「応答への不安」因子・「繋がり願望」因子の相関

	不安	回避	応答	繋がり
不安	1.000			
回避	.154 ⁺	1.000		
「応答への不安」因子	.399**	-.083	1.000	
「繋がり願望」因子の相関	.399**	-.189*	.571**	1.000

** $p < .01$, * $p < .05$, ⁺ $p < .10$

IV. 考 察

1. 愛着傾向とLINEの返信に対する不安

クロス集計の結果によると、「2. 相手からの返信が遅いと不安になる」「13. 既読がついているのに返信がないと不安になる」「7. 既読がついているのに返信がないとイライラする」という項目において、とらわれ型の人「当てはまる」と回答した割合がそれぞれ54.3%, 51.4%, 57.1%と他の型と比べて有意に高かった。また、相関分析においても、「2. 相手からの返信が遅いと不安になる」「10. 相手からの返信が遅いとイライラする」「13. 既読がついているのに返信がないと不安になる」「7. 既読がついているのに返信がないとイライラする」という項目と愛着の不安傾向に正の相関が見られた。このことから先行研究で述べられていたように、愛着の不安傾向が高い人は対人関係不安が高く⁶⁾、その傾向は対面のみでなくSNSの上でも見られることが明らかとなった。また、不安になるだけではなくイライラするという点については、不安傾向が高いと相手の些細な言動を被害的に受け止めるため、激しい不安にとらわれそれが相手への怒りや敵意になる⁷⁾と考えられる。また、とらわれ型は「15. LINEの通知が来ていないか頻繁にチェックする」に「当てはまる」と回答した割合が34.3%と他の型と比べて有意に高く、相関分析においても同項目および「8. 既読がついたかどうか何度も確認する」について、不安傾向と正の相関が見られた。これは、不安傾向が高いと相手からの拒絶サインに敏感である⁸⁾ため、何度も確認する行動に出るのではないかと推察される。

一方で、クロス集計の「13. 既読がついているのに返信がないと不安になる」「7. 既読がついているのに返信がないとイライラする」という項目において、安定型の人「当てはまらない」と回答した割合がそれぞれ84.4%, 80.0%と他の型と比べて有意に高かった。これは、安定型が自立的であるため、人から拒絶される場面があっても不安にならないためであると考えられる。同様に、

「13. 既読がついているのに返信がないと不安になる」という項目において、拒絶型の「当てはまらない」と回答した割合が80.8%と他の型と比べて有意に高かった。これは、安定型とは異なり、回避傾向が強いと相手の応答性に対する信頼が低い⁹⁾ことが要因ではないかと推察される。もともと相手に対して応答を求めているので、相手から応答すなわち返信がなくても気にならないのではないかと思われる。これらのことから、愛着の不安傾向が高いとLINEにおいても不安を抱えやすく、不安傾向が低いとLINEにおいても不安を感じにくいことが明らかにされた。愛着の不安傾向が高いと、「自分は見捨てられるのではないか」「相手に受け入れてもらえるのか」という不安が大きいため、相手の応答により敏感になり、何度も通知が来ていないか、また自分のメッセージに既読がついていないかを確認する。その時に相手からの返信が遅かったり、既読がついているのに返信がないいわゆる「既読無視」をされたりすると、その事実を被害的に捉え不安になり、やがて相手に怒りを感じるようになる。対して安定型と拒絶型はどちらも相手からの返信や既読無視には不安になりにくいとその要因は異なっている。安定型は自立的であるため相手の行動によって不安になりにくい、拒絶型はそもそも相手の応答を期待していないために不安になりにくいのであると考えられる。

2. 愛着傾向とLINEの捉え方

不安傾向の高さと「9. LINEをチェックしたときに1件もメッセージがないと寂しい」「17. LINEを使っているとき自分は今1人じゃないという感覚がある」「11. LINEがあればいつでも誰かと繋がっているように感じられる」の項目には正の相関が見られた。このことから、不安傾向が高い人はLINEによって人との繋がりをより強く感じ、LINEを人と繋がり寂しさを解消する手段として認識しているのではないかと考えられる。これは、因子分析によって抽出された「応答に対する不安」因子、「繋がり願望」因子の傾向と愛

着の不安傾向に正の相関が見られたことから示唆されている。

一方で拒絶型は「17. LINEを使っているとき、自分は今一人じゃないという感覚がある」という項目に「当てはまらない」という回答の割合が88.5%であり他の型と比べて有意に高かった。これは拒絶型が他者を頼りにせず、距離を置いたり避けたりすることから、SNSの上でも人と親密になったり繋がったりするという意識が低く、LINEを使用することで人との繋がりを感じにくいのではないかと推察される。そのためとられ型の人とは異なり、LINEを人と繋がる手段としてではなく、1つの連絡手段として捉えている人が多いのではないかと考えられる。これらのことから、愛着傾向によってLINEの捉え方に差があるのではないかと推測される。不安傾向の高いとられ型はLINEによって人との繋がりを感じ、LINEをコミュニケーションの手段と捉えている人が多いのではないかと考えられる。一方で、回避傾向の高い拒絶型はLINEに人との繋がりを感じておらず、コミュニケーションというよりも、連絡手段として捉えている人が多いのではないかと考えられる。

3. 愛着傾向とLINEにおける気遣い

恐れ型では、「14. 自分からやりとりを終わらせることがなかなかできない」という項目に「当てはまる」と回答した割合が51.2%と他の型と比べて有意に高かった。これは恐れ型が他者に拒否され傷つくことを恐れることから、相手に過剰に気を遣い、LINEのやりとりを終わらせたくても、相手に嫌われることが怖くて躊躇してしまうのではないかと推測される。

一方で拒絶型は「14. 自分からやりとりを終わらせることがなかなかできない」という項目に「当てはまらない」と回答した割合が高かった。これは、回避傾向が高いと友人との親密な関係を持たないし、持とうともしないため気を遣わないということから、LINEにおいても相手に気を遣わずに自分が終わらせたいときにやりとりを終わらせ

ることができるのだと推測される。

恐れ型も拒絶型も回避傾向が高く、先行研究によると相手に気を遣わないとされるが、今回の研究ではそれ以上に恐れ型の「相手に拒否され傷つく不安」の傾向が強くなったために、このような違いが見られたのではないかと考えられる。

4. LINEに関する価値観の違い

相関分析において「どのくらいの時間返信が来ないと遅いと感じるか」と「LINEを開いたときどれくらい通知が来ていたら多いと感じるか」という項目に高い正の相関が見られた。つまり、返信が遅いと感じる時間が長いほど、通知が多いと感じる件数が多いということが明らかになった。この2つの項目は不安傾向と弱い相関が見られたが、回避傾向とは相関が見られなかった。このことと、2項目が強く関連していることから、「返信が遅いと感じる感覚」と「通知が多いと感じる感覚」に愛着傾向はあまり影響しておらず、これらの差はLINEの使用に対する価値観の違いによるものではないかと考えられる。LINEの返信が遅いと感じにくい人ほど通知がたくさん来ていても多いとは感じにくく、つまりLINEにあまり関心がなく、LINEの管理や連絡に対してルーズであることが、この項目に影響したのではないかと推察される。特にこの2つの項目に関しては回答の個人差が大きかったため、LINEや連絡に対する価値観の大きな違いが見られたのではないかと考えられる。

V. 研究の限界と今後の課題

本研究では、大学生を対象として愛着傾向やLINEの使用状況及び考えについて調査した。しかし、今回対象として調査した大学生はすべて北海道教育大学札幌校の学生である。同じ大学かつ同じ学部では、学力や考え方に偏りが出ることが考えられる。特に考え方や価値観によって、LINEの使用や対人関係に関する回答に影響が出る可能性がある。また、生まれ育った地域や家庭

の環境にも偏りが出ると考えられ、これらは愛着傾向に影響を及ぼす可能性があると考えられる。このような偏りをなくし、より一般的な母集団に近づけることが必要である。

また、対象者の半数以上が女性であったことも、研究結果に影響を及ぼした可能性があると考えられる。今後、男性の対象者を増やし調査することで、LINEの使用や愛着傾向に関して新たに性差などの特徴を見いだすことができると期待できる。

さらに、本研究では対象者の数が154人と統計としては小規模であった。そのため、特に回避型のサンプルが少数になり、今回の調査では相関やその他の傾向があまり強く現れなかった。対象者の数を増やし大規模な調査を行うことで、より相関や傾向が明らかにできるとともに、より信頼できるデータ結果が得られると考えられる。

先行研究ではSNSなどの「非対面」の対人関係と愛着傾向についての調査が見られなかったため、本研究では特にLINEに焦点をあて、その関連を明らかにした。しかし、調査したのはLINEに関する対人関係についてのみであり、その他のツールは調べていない。そのため、愛着傾向だけではなく、LINEに対する個人の価値観なども回答に影響を及ぼしていると考えられる。今後は、LINEについてのみだけではなく、その他のSNSについても調査をすることでその特性なども踏まえて研究をしていくことが必要である。さらに、「非対面」の対人関係はSNSだけではなく、その他のインターネット上の書き込みやオンライン通信、電話、手紙など多岐にわたっている。これらを調査し、分析・検討していくことで、愛着傾向と対人関係の関連についてさらに研究を進めていくことが期待される。

引用文献

- 1) Bowlby, J : Attachment and loss vol.1: Attachment, New York: Basic Books, 1969
- 2) Bartholomew, K. & Horowitz, L.M.: Attachment styles among young adults: A test of a four-category model. Journal of Personality and Social Psychology, 61, pp226-244, 1991
- 3) 丹羽智美：青年期における親への愛着と環境移行期における適応過程, パーソナリティ研究, 13(2), 156-169, 2005
- 4) 妾信善, 大重絵美里：子どもの認知する親への親和性と関係性攻撃との関連—関係性攻撃経験および関係性攻撃経験後の対人関係に及ぼす影響を中心に—人間科学発達部紀要, 1(2), 1-11, 2007
- 5) 中尾達馬, 加藤和生：“一般他者”を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討, 九州大学心理学研究, 5, 19-27, 2004
- 6) 丹羽智美：青年期における親への愛着が友人関係に及ぼす影響—環境移行期に着目して—, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学, 49, 135-143, 2002
- 7) 岡田尊司：愛着障害—子ども時代を引きずる人々—, 光文社, 2011
- 8) 宮崎弦太, 池上知子：社会的拒否への対応行動を規定する関係要因—関係相手からの受容予測と関係へのコミットメント—, 実験社会心理学研究, 50(2), 194-204, 2011
- 9) 宮崎弦太, 池上知子：友人関係への依存度と拒絶のサインへの鋭敏性—共同規範と交換規範による際の検討—, 立教大学心理学研究, 58, 23-37, 2016

(山田 玲子 札幌校教授)

(谷口 ゆい 札幌校令和元年度卒業生)

(岡田 忠雄 札幌校教授)